



新春ご挨拶 2023

新年のご挨拶



結核予防会

理事長 尾身 茂

あけましておめでとうございます。

昨年、我が国をはじめ国際社会全体が、3年間続いたコロナパンデミックに加え、ウクライナ問題という歴史的にも極めて困難な課題に直面した一年でした。我々の社会が不確実な時代に突入したことを直視せざるを得ない年でした。

そうした中でも本会の活動に対し、厚労省、外務省、WHO、JICA、本会全国都道府県支部、結核予防婦人会、第一生命保険株式会社、日本ビーシージー製造株式会社など関係者の皆様から温かいご支援をいただいたことについて心より感謝を申し上げます。

コロナパンデミックは、国内外の結核対策や私ども本会の活動にも様々な影響を与えました。実際、病院、介護事業、健診事業、国際協力事業などを展開する上で、現場の皆さまにとってはいつもの年にも増してご苦勞の多かった年でありました。

例えば、我が国の結核対策も一定程度コロナにより影響を受けました。コロナ感染を恐れる人の受診控えや健診の停滞による患者発見の減少が起きたり、結核病床がコロナ患者のために転用されたりしたために、結核患者の病床確保に支障が生じた地域もあったと聞いております。

また、病院も一般医療の受診抑制、材料費など諸経費の高騰で経営にも難しさが増し、カンボジア事業などの本会の国際協力事業も円安により影響を受けました。

しかし、こうした困難な状況の中でも、本会職員はじめ関係者の皆さんがこれまでどおり地道な努力を続けていただき、心より敬意を表したいと思います。

様々な困難があった一年でしたが、結核に関与してきた私どもにとって朗報がありました。皆さんの努力

により結核がついに人口10万人あたり9.2と、罹患率が10を割って結核中まん延国から低まん延国となったことは特記すべきことであります。

さて、私自身、昨年6月の理事長就任からの半年間に全国都道府県支部や婦人会の方々にお会いする機会がありました。また、結核研究所、複十字病院、新山手病院、保生の森、総合健診推進センター、更に国際的な事業の関係者と詳しく話をする機会を持つことができ、現場の皆さんの高い志と同時にそれぞれの現場が直面している課題について理解を深めることができました。

昨年11月18日には永年勤続職員表彰式で勤続30年の職員の皆さんに実際にお会いする機会がありました。同日に開催された資金寄附者感謝状贈呈式には、総裁秋篠宮皇嗣妃殿下にご臨席いただき、寄附者の皆さまへ総裁自らお声がけをいただきました。

今年の2月には4年ぶりに対面形式での第74回結核予防全国大会が熊本県で開催されます。本全国大会では、コロナを超えていかに結核に対処するか、健診や経営の更なる強化をいかにするかなどについて議論されることとなっております。

また、6月には第98回日本結核・非結核性抗酸菌症学会 総会・学術講演会が開催され、創立100周年を迎える記念すべき年に、結核研究所の加藤所長が大会長を務められます。本会の多くの役職員や全国の関係者が広く参加することと思います。

今年がウィズコロナに向かって第一歩を踏み出す年となることに思いを致し、結核対策の前進及び皆様のご健康とご多幸を祈念しつつ新年のあいさつとさせていただきます。

今年もよろしく願いいたします。🍷